

性役割意識と服装行動との関連について (第10報)

--性役割意識のタイプによる服装行動の差異--

○西藤栄子* 中川早苗**

(*神戸芸工大 (非) **奈良女大)

【目的】本研究は男らしさ、女らしさに対する意識とそれを表現する服装行動との関連を明らかにすることを目的としている。これまでの一連の研究から、相互の関連を検討するための性役割意識と服装イメージの測定尺度を作成し、前報では両尺度を用いて得られた測定結果をもとに正準相関分析を行って尺度間における各次元の関連性を検討した。本報では、性役割意識のタイプと服装行動との関連およびその差異について検討した。

【方法】性役割意識は、社会的評価と個人的評価について5段階で評定を求めた。服装行動に関しては、服装に対する関心や規範意識、おしゃれ意識、態度、行動傾向の側面から検討するための質問項目を設定し、項目ごとに4～5段階で評定を求めた。性役割意識の測定結果からタイプ分けを行い、そのタイプと服装行動との関連および差異について、クロス集計や分散分析などを用いて検討した。調査は女子学生306名(高校生137名、大学生169名)を対象に、1996年12月に実施した。

【結果】性役割意識のタイプ分けは「男性性」「女性性」の次元をもとに行い、男性性タイプと女性性タイプの服装行動を比較した結果、服装に対する関心や規範意識、おしゃれ意識は女性性のタイプで高い結果を得た。服装に対する態度および行動傾向については、女性性タイプが、より女性らしい服装を、良いと評価し、着たい、着ると、肯定的であるのに対して、男性性タイプは逆に否定的であることが明らかになった。